

國語の亂れ

赤谷慶子

九月二十六日の朝日新聞に「國語の亂れ」を感じる人減少せりとの記事、掲載せられたり。SNSの普及により膨大なる量の多様な話し言葉に接し、本来の意味と若干異なる表現といへども、廣く許容せらるるに至れるがゆゑならんかとの由。この輿論調査は文化廳發表せるものにして、日本人の國語の亂れに對する意識變化明らかになりたりと指摘してあり。

まさしく須磨帆スマホのSNS上の交信は短く話し言葉多し。長文を書かんと欲すれば携帯メールを使ふに如かず。

義務教育の殆どを海外にて受けたる故に日本語に對し過剰反應したりとも思はるれど、この二十年ほど、敬語正確に話すを得る人激減してあり。言葉を途中にて切る事頻發す。例を擧ぐれば、会社にて外部より電話あれば、例へ社長ならむとも、名前を呼び棄てにするが常道なり。然るに「〇〇部長さんは今お席にいらっしやいません」と上司をさん附けにす。甚だしきに至りては「〇〇はセキアキなり」席空きたれば不在なりといふ意味らし。これを以て亂れてをらずと考ふるは無理ありと覺ゆ。

友人ある老舗のデパートにて支拂ひをせんと財布の中のカードを探したるに、レジの女性より「お客様、立て込んでおりますので、恐れ入りますがナルハヤの形でお願ひします」と催促され、啞然としたりき。ナルハヤはなるべく早くといふ事ならむが、老舗にてもこの有様に失望せずんばあらず。

この調査の中にて、亂れてをらずと答へたる人達は「言葉は時代によりて變はるものなりと思ふ」といふ意見なり。かかる傾向あるは否定する能はず。さはれ、麗しき日本失はれて行くは悲し。

(令和二年九月二十九日受附)